

くすのき



～ 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果分析と改善の取組について ～

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図るため、令和8年4月23日、6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われました。実施時期が4月であるため、5年生までの学習状況の調査となります。本校の調査結果の分析と教育活動の改善を下記にまとめておりますのでご覧ください。

なお、全国の調査結果概要は、国立教育政策研究所ホームページに掲載しております。

□結果分析

1 教科（国語科・算数科）に関する調査

【全般的傾向】

今年度の氷丘小学校の平均正答率は、国語科は全国平均・兵庫県平均をやや上回り、算数科は全国平均・兵庫県平均をやや下回りました。2教科とも、基礎・基本の定着はある程度見られましたが、知識を活用する段階でつまづいている傾向が見られたり、選択解答に比べ記述解答を苦手にしていたりする傾向が見られました。

【国語科】 ○…優れている項目 △…課題となる項目

- 情報の抽出と記述能力：文章の内容を情報のまとまりから抜き出して書く能力に優れています。
- 動画や音声の工夫の理解：動画の工夫や音声の効果を捉える問題で高い正答率を示しました。
- 経験と結びつけた記述：文章を読んで考えたことを、自身の経験を踏まえてまとめる力が定着しています。
- △ 漢字の基礎・定着：一部の漢字の書き取りで高い正答率を示している一方で、「みじか（い）」のように送り仮名を正しく理解・定着できていない傾向が見られます。
- △ 文章全体の特徴の把握：文章の書き表し方、表現の仕方の特徴を正確に選択することに改善の余地があります。



【算数科】

- 小数の計算と判断：二つの小数の大小を比較し、基準に近い方を判断する力があります。
- 割合について理解：百分率から基準となる量を求める計算能力が全国に比べて高いです。
- 立体の体積の基本：立方体の体積を求めるなど、図形の基本概念が理解できています。
- △ データの活用と読み取り：二次元の表や帯グラフから必要な情報を正確に読み取ることに課題があります。
- △ 単位量当たりの大きさ：混み具合の比較など、単位量当たりの概念の理解に課題があります。
- △ 数学的な根拠の説明：分数の大小比較の理由を言葉や数で記述して説明する力に課題があります。
- △ グラフの読解や思考を要する記述問題を中心に、国語科に比べて回答を避ける傾向が強く、無回答率の高さが顕著な課題となっています。

2 質問紙調査

- ・「自分には、よいところがある」89.6%（全国 85.6%）と高く、自己肯定感は概ね良好です。
- ・「困りごとがある時に先生等に相談できる」と回答した児童は、全国平均の70%を上回る75.7%に達していますが、一方で約4分の1の児童が相談しにくいと感じている現状があります。
- ・教科の好き嫌いについては、好きと答えた児童が国語（57.4%）、算数（66.9%）、英語（66.1%）といずれも全国平均を上回る意欲を見せています。
- ・ICT機器の使用頻度は非常に高く、学習に積極的に取り入れられています。
- ・家庭での平日の学習時間（習い事等を含む）が「1時間より少ない（30分～1時間未満、30分未満、全くしないの合計）」の児童が、全国平均に対して高く、約7割の児童が1時間未満となっています。
- ・学校図書室や図書館の利用について「全く行かない」「ほとんど行かない」と回答した児童の割合が全国や兵庫県に比べて多く、読書活動への取り組みに課題があります。

□改善の取組

- ・データの読解力の向上：授業において、図表やグラフから情報を整理し、根拠を持って説明する活動を強化します。
- ・「書く習慣」の定着：国語の記述力を算数等の「理由説明」にも広げ、思考を言語化し、最後まで書き切る粘り強さを育てていきます。
- ・ICTや話し合い活動を活かした「わかる授業」で基礎を定着させ、学習への自信と意欲を高める取り組みを全校で推進していきます。
- ・記述への努力を肯定的に評価し自己肯定感を育むことで、苦手意識を改善し、学ぶ楽しさを実感させていきます。
- ・家庭学習と読書の奨励：家庭と協力し、家庭学習時間の充実と、図書室、図書館の活用を促す工夫に取り組みます。
- ・相談体制の充実：4分の3の児童が「先生に相談できる」と感じており全国平均より高いが、残りの4分の1の児童が「先生に相談しにくい」と感じている現状を改善するため、教育相談や日々の関わりを一層深めていきます。